

父親の育児

大阪教育大学 教育学部家政教育部門
教授 小崎 恭弘



父親の子育てが社会で注目されています。「イクメン」という言葉が出始めた頃には、いちいち「育児に熱心な男性・育児に積極的に関わりを持つとすするパパ」などと説明が必要でした。しかし今となつては「イクメン」は一般用語として、すっかりと定着した感があります。いちいちもう説明の必要はないですね。「あの人はイクメン!」と言えば、みなさんに通じる時代となりました。

しかし日本には古来より、育児をする男性を指す言葉があったのです。みなさんはその言葉ご存知ですか?これ以外に難しいですよ。それは「父親」です。一瞬「ん?」と考え込んでしまいますが、よくよく考えればそうですよね。いたって単純なことなんです、これにはなかなか気づきません。

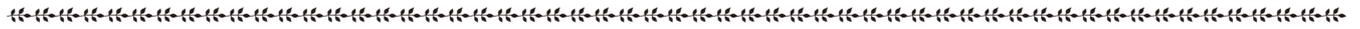
子どもを育てる男性が父親であるということは、なぜ社会で認識されていないのでしょうか。いくつか理由が考えられますが、その最も大きなことは「仕事中心の生き方」を男性が負わされてきたからだと思います。もちろん仕事はとても大切なことであり、生活の大きな柱だと思います。しかしあくまで仕事は生活の中の一部であり、同じぐらい家族を大切にしたり、また子どもを育てたりすることも生活の中には存在しています。しかし残念ながら、高度経済成長以降日本では子育ては女性の仕事とされ、男性は仕事だけをしていれば良いということになりました。

けれどそのような生き方自体が、時代や社会の変化に合わなくなってきたタイミングで、イクメンが注目を浴びたのです。これからの時代は男性も女性も仕事も、そして家族や子育ても大切にする生き方が求められてきます。生活の真ん中に自分を置いて、仕事も家庭もそして趣味や地域の活動など、様々な

ことを自らが主体となり楽しんでほしいです。これまで多くの男性は、自分の人生を生きることが下手でした。男性は「仕事中心の生き方」しか方法がなかったのです。その生き方自体を否定はしませんが、それは本当に自分が望む生き方なのでしょうか。子どもの素晴らしさを感じる、新しい生き方を踏み出してほしいと思います。それは「イクメン」としてではなく、父親として歩んでほしいです。

保育の営みは子どもの成長をその基盤におき、そしてそれらの良き関わりを家族や社会と共に行うことです。子どもの良き育ちは、保育のみで達成できるものではありません。また多くの子どもたちが幼稚園をはじめ様々な保育施設に通う現代において、施設のみで子どもが育つわけでもありません。家庭と保育施設がしっかりと手を携え、子どもを中心とした温かく柔らかな関係性の中で子どもたちが育つのです。これまでその家庭において、父親の存在感はあまりありませんでした。育児の主体として、父親が位置付けられていなかったからです。しかしこれからの多様化の進む社会において、父親もその親としての役割や責任、また同時に楽しみや喜びを大切にしていく時代となりました。保育に関わる人々の、父親に対する眼差しを変えるタイミングが来たと言えます。

子育てはとても楽しいものです。幼い子どもが日々成長をする過程は、何にも代えがたい喜びの一つです。そのことに一生懸命に関わることで、夫婦や親子が一つの家族となっていくのです。不透明で混迷の時代だからこそ、一步一步確実に家族を作っていくことを、父親からはじめてほしいと思います。そして父親を積極的に保育が支えて行って欲しいと思います。



新学期を迎えるにあたって

全日本私立幼稚園連合会
会長 田中 雅道

新しい子どもたちと共に新学期をスタートされたことと思います。新学期をスタートするにあたり、年間指導計画や月の指導案・週案など多くの書類を作成されたのではないのでしょうか。現代ではパソコンが普及していますから、一からすべての書類を書き直すのではなく、前年度の書類を一部修正する形で基本形は作成できます。

幼稚園教育にとって、各園で最も大切な書類は教育課程です。幼稚園教育を通して育てほしい姿が順を追って表現されているのが教育課程です。あくまでも育ていく道順の理論値ですから、園によって特に特徴が出せるものではありません。また、地域によっても大きな差があるとは思えません。ですから、必然的に同じような表現、文章になっていくのだと思っています。また、毎年変わっていくものだとも思えません。同じであっても自園が育てほしいと願っている姿を表現するものとして、微調整しながら考えて頂ければいいのではないかと考えています。

教育課程と似ているようで、微妙に異なるのが年間指導計画です。年間指導計画の段階になると、今、在籍している子どもの姿が投入され、理論値である教育課程を実現していく道順として具体的な内容が記述されていきます。今年、それぞれの子どもたちにどのような経験値を積むことに意味があるかを考え、毎年作成されていくのが年間指導計画です。その時にどの行事をどの段階で実施していくのかといった、具体的な内容までが決まっていきます。昨今のコロナの影響で年間の見通しすら立てにくい状況が発生していましたが、ようやく落ち着いて年間

を見通した計画が立てられるようになったのではないのでしょうか。私は、教育課程は作成することに意味があると思っていますが、年間指導計画は作成した段階で終わってしまうのではなく、常に子どもの変化を見ながら柔軟に変更をかけて実施していくものだと考えています。作成することに意味を置くのではなく、どう実施していくかに重点を置いてものになっていくことが望ましいと考えています。

文部科学省の発想として、学年を通しての子どもの育ちという発想が強いので、どうしても個の育ちよりも、集団としての育ちに視点を置いた発想が強くなるのですが、小学校も個の学びを重視するようになってきました。個の育ちの集大成としての集団の育ちがあるのだというベクトルが強くなってきていると思います。そういった発想を最も生かしていくのが、週案・日案だと思っています。計画は練るのですが、それを子どもたちに提案していく段階で、子どもたちの反応を読み取り、修正を加えながら活動を展開していくことが幼児教育では特に強く求められているのです。週案・日案はあればいいのではなく、実際にどう実施してどう変化したかの記述に意味があると考えています。いずれにしても週案・日案は作成することに時間を割くのではなく、どう実施するか時間に配分していくことが重要だと思っています。



受配者指定寄付金制度を利用して、学校法人立の私立幼稚園へ寄付を行うと、寄付者（企業・法人）は法人税法上の優遇措置として**全額損金算入**することができます。

ご利用には一定の要件があります。詳細については、「**受配者指定寄付金事務の手引**」をご覧ください。

参照：私学事業団ホームページ[助成業務のご案内]▶受配者指定寄付金▶受配者指定寄付金「寄付金事務の手引」

ご不明な点など、下記までお気軽にご相談ください。

日本私立学校振興・共済事業団
助成部 寄付金課
〒102-8145
東京都千代田区富士見 1-10-12
TEL 03-3230-7317 ~ 7318
e:mail kifukin@shigaku.go.jp
HP-URL <https://www.shigaku.go.jp/>

受配者指定寄付金制度

をご利用ください

寄付金募集の際には日本私立学校振興・共済事業団の

はじめてみませんか 寄付金募集

寄付募集の情報を掲載しませんか
私立学校寄付金ポータルサイト
<https://kifu-portal.shigaku.go.jp>

- ・園の特色や所在地など、寄付者の視点で情報を検索できるサイトです。
- ・掲載方法等は左記までお問い合わせください。

アクセスはこちら→



※子ども子育て支援施設（学校法人が設置する幼保連携型認定こども園）支援のための寄付金もこちらの制度の対象となります

こどもがまんなか

～良質な幼児教育をすべての子どもに～

2月5日(月)、午前11時よりアルカディア市ヶ谷において、初の試みとして各地域におけるPTA団体ごとに、国会議員の先生方との懇談会を実施いたしました。各地区のPTA連合会としての政策要望並びに、保護者目線での意見や、全国単位の課題と地域ごとの課題等を、それぞれ国会議員の先生方と共有し「未来の幼児教育を考える機会」の場として、意見交換がなされました。終始和やかな雰囲気の中、懇談会は終了し、皆様引き続き行われた全国大会の会場へと向かって行かれました。

当日ご参加いただいた多くの国会議員の方々からは、次回開催を強く要望されました。なお、当日ご参加いただいた国会議員の方々には、次頁右下のQRコードよりご確認ください。

続いて午後1時から、全日本私立幼稚園PTA連合会第37回PTA全国大会が開催されました。

「こどもがまんなか～良質な幼児教育をすべての子どもに～」を大会テーマに、全国各地から保護者代表、幼稚園関係者など約300名が参加しました。

本大会では、あべ俊子文部科学副大臣、中曽根弘文自由民主党幼児教育議員連盟会長、山谷えり子自



由民主党幼児教育議員連盟副会長、橋本聖子自由民主党幼児教育議員連盟副会長、丹羽秀樹自由民主党幼児教育議員連盟事務局長、矢野和彦文部科学省初等中等局長、望月禎文部科学省総合教育政策局長、藤岡謙一文部科学省初等中等教育局幼児教育課長、高木秀人文部科学省総合教育政策局地域学習推進課長が臨席され、全日本私立幼稚園PTA連合会からは月本喜久会長、遠藤利明・衆議院議員(全日私幼P連副会長)、山本順三・参議院議員(全日私幼P連副会長)、大越誠之副会長、敷樋昌子副会長、山本英之副会長、全日私幼連からは田中雅道会長が出席し、盛大に開催されました。

宣言

私たちは、次代を担う子どもたちの心豊かな人間としての成長や幸福を願い、常にこどもがまんなかの視点から、家庭教育の向上、すべての子どもが良質な幼児教育を受けることができる社会を目指して、子どもたちがはじめて出会う学校である私立幼稚園・認定こども園とともに努力することを宣言します。

- 一、私たちは、子どもたちの教育の原点が家庭にあることを再認識し、家庭が子どもにとって最も安心でき、共に学びあえる場になるよう努めます。
- 一、私たちは、心豊かな子どもを育むために、私立幼稚園・認定こども園の良質な幼児教育を通して、子どもとともに「生きる力」を学びあい、積極的に自己研鑽に努めます。
- 一、私たちは、地域の人々との絆を深め、心をつなげて、自然災害や事故、環境汚染等から子どもたちの生命を守り、安心して子育てすることのできる地域社会づくりの支援に努めます。
- 一、私たちは、社会や子どもにとって本当に必要な子育て支援の政策が実現されるよう全国の保護者とともに努めます。
- 一、私たちは、幼児教育の無償化に伴い私立幼稚園・認定こども園とともに幼児教育のさらなる質の向上に努めます。

令和6年2月5日
第37回全日本私立幼稚園PTA連合会全国大会



あべ俊子氏
文部科学副大臣



中曽根弘文氏
自由民主党幼児教育
議員連盟会長



山谷えり子氏
自由民主党幼児教育
議員連盟副会長



橋本聖子氏
自由民主党幼児教育
議員連盟副会長



丹羽秀樹氏
自由民主党幼児教育
議員連盟事務局長



月本喜久氏
全日私幼 P 連会長



遠藤利明氏
衆議院議員
全日私幼 P 連副会長



山本順三氏
参議院議員
全日私幼 P 連副会長



第 2 部 記念講演 土井 善晴氏



第 1 部の大会式典では、遠藤利明・衆議院議員(全日私幼 P 連副会長) から開会のことばが述べられ、続いて、月本喜久全日私幼 P 連会長からあいさつがありました。

来賓祝辞では、あべ俊子文部科学副大臣、中曽根弘文自由民主党幼児教育議員連盟会長、山谷えり子自由民主党幼児教育議員連盟副会長、橋本聖子自由民主党幼児教育議員連盟副会長、丹羽秀樹自由民主党幼児教育議員連盟事務局長からご祝辞をいただきました。

来賓紹介では、保岡宏武・衆議院議員(鹿児島県)、松下新平・参議院議員(宮崎県)、清水真人参議院議員・秘書三留哲郎氏(新潟県)の紹介がありました。

また、土屋品子復興大臣、尾身朝子・衆議院議員(群馬県)、小林一大・参議院議員(新潟県)からは

祝電をいただきました。

続いて、敷樋昌子全日私幼 P 連副会長から今大会の大会宣言が読み上げられ、満場一致で採択されました。

最後に、山本順三・参議院議員(全日私幼 P 連副会長) から閉会のことばが述べられ、第 1 部が終了しました。

第 2 部では、記念講演の講師として土井善晴氏(おいしいもの研究所代表/料理研究家/十文字女子大学招聘教授/東京大学先端科学技術研究センター客員上級研究員)をお招きしました。土井氏には「料理して食べること」と題してご講演いただき、盛会のうちに終了いたしました。



● 2.19 常任理事会

令和 6 年度会費・事業計画・予算等を審議

2月19日(金)、東京・アルカディア市ヶ谷にて常任理事会が31人の出席により開催されました。はじめに、尾上正史副会長から開会のことばがあり、引き続き、田中雅道会長からあいさつがありました。

その後、議題に入り、議長に松岡明範氏(愛知県)が選出され、議事録署名人に水越省三氏(愛知県)、宮崎史郷氏(福岡県)が選出されました。

■審議案件

- (1) 令和6年度会費の再提案について
- (2) 令和5年度補正予算(案)の件について
- (3) 令和6年度事業計画(案)の件について

(4) 令和6年度収支予算案の件について

各案件に対し議論がなされ、さらに協議を重ねていくべき重要課題として、引き続き開催される団体長・理事会合同会議に上程することとなりました。

■協議案件 組織改革の件について

組織改革について内野光裕副会長より説明があり次回以降の諸会議においても協議を重ねるべき案件として意見交換がなされました。

最後に、角谷正雄副会長から閉会のことばが述べられ、閉会となりました。

(総務委員長・福井徹人)

● 2.19 団体長・理事会合同会議

令和 6 年度会費・事業計画・予算等を審議

2月19日(月)、東京・アルカディア市ヶ谷にて団体長・理事会合同会議が58人の出席により開催されました。はじめに、尾上正史副会長から開会のことばがあり、引き続き、田中雅道会長からあいさつがありました。

また、荒井徹成氏(石川県)並びに畠山遵氏(富山県)から1月1日に発生した令和6年能登半島沖地震の被害についての報告がありました。続いて、大濱弁護士より横領事件に関する裁判の進捗状況の報告がありました。

その後、議題に入り、議長に船田弘和氏(栃木県)、坪井久也氏(香川県)が選出され、議事録署名人に千葉一道氏(静岡県)、内山昭氏(和歌山県)が選出されました。

■審議案件

- (1) 令和6年度会費の再提案について
- (2) 令和5年度補正予算(案)の件について
- (3) 令和6年度事業計画(案)の件について
- (4) 令和6年度収支予算案の件について
- (5) 役員改選の件について

それぞれ議論がなされ、令和5年度補正予算(案)については賛成多数で可決されました。他の案件についてはさらに協議を重ねていくべき重要課題として、次回の団体長・理事会合同会議に上程することとなりました。

最後に、山西幸子副会長から閉会のことばが述べられ、閉会となりました。

(総務委員長・福井徹人)

● 2.28 団体長・理事会合同会議

令和 6 年度事業計画・会費・予算等を議決

2月28日(水)、東京・アルカディア市ヶ谷にて団体長会・理事会合同会議が58人の出席により開催されました。はじめに、尾上正史副会長から開会のことばがあり、引き続き、田中雅道会長からあいさつがありました。

その後、議題に入り、議長に船田弘和氏(栃木県)、宮崎史郷氏(福岡県)が選出され、議事録署名人に山中真介氏(兵庫県)、渡真利彦文氏(沖縄県)が選出されました。

■審議案件

- (1) 令和6年度事業計画(案)の件について
- (2) 令和6年度会費の再提案について
- (3) 令和6年度収支予算案の件について
- (4) 役員改選の件について

田中会長、内野光裕副会長並びに福井徹人総務委員長

より、令和6年度会費案並びに収支予算案について詳細な説明があり、[園割会費12,000/園]、[園児割会費70円/園児]、[特別会費1,500/園]を納入していただくことが賛成多数で承認されました。

役員改選については理事会小員会の設置が賛成多数で議決され、合わせて地区長が構成員になることが議決されました。

■協議案件 (1) 組織改革について

組織改革・役員の役割について内野光裕副会長より説明がありました。次回以降の諸会議においても協議を重ねるべき案件とすることが賛成多数で可決されました。

続いて畠山一雄監事より監査報告が行われました。

最後に、松岡明範副会長から閉会のことばが述べられ、閉会となりました。

(総務委員長・福井徹人)

令和6年能登半島地震

～各県の状況報告～

令和6年1月1日午後4時10分ごろ、石川県能登半島を震源とする、最大震度7の地震が発生しました。この地震により石川県、富山県、新潟県、福井県において、死者200名以上、家屋の倒壊、火災、液状化等、甚大な被害が出ました。被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。

各県の被害状況をご報告いたします。

石川県

今回の令和6年能登半島地震に際しまして、全国の皆様から沢山のお見舞いや、支援のお申し出を頂きまして、誠に有り難うございます。私ども（一社）石川県私立幼稚園協会には57の加盟園があり、そのうち6園が能登地区にあります。震源に一番近い輪島市には2園あり、2園とも園舎自体は倒壊を免れたものの、1園は隣の建物がもたれかかって



石川県・輪島市和光幼稚園
隣の建物が園舎の硝子を突き破り入ってきている様子

きて危険な状態。共に停電、断水が続き、1月中に電気は復旧したものの、水道は3月末にようやく完全復旧の見込みとなりました。他の4園も直後は停電や断水が起こり、液状化で園舎が傾いた園もありました。そんな中、地域の一時避難所として近隣住民を受け入れ、子育て支援のみならず、地域コミュニティの拠点として活動されました。その他金沢地区や加賀地区の園でも備品の破損や倒壊、園舎のひび割れ等は31園で確認され、被害なしと回答された園においても報告するまでもないとされた被害はあったものと思われます。

（石川県・なかよし幼稚園／遠州 賢）

富山県

富山県では観測史上最大の震度5強を各地域で観測しました。特に地盤が弱かったと思われる、氷見市（加盟園2園）、高岡市伏木地区（加盟園2園）に被害が出ました。それぞれの加盟園では、園舎には開園に支障の出るような被害はありませんでしたが、4園中3園は液状化によると思われる水道管の断裂で、4～7日間断水しました。給食の提供ができず、弁当・飲み水持参という形で3学期がスタートしました。現在は4園とも支障なく開園しています。加盟園の一番多い富山市でも、園舎には開園に支障の出るような被害はありませんし、断水もありませんでしたが、市内各地で液状化による道路のひび割れや家屋の傾きなど多数の被害が確認されています。

（富山県・堀川幼稚園／波岡 伸郎）

新潟県

この度の能登半島地震では新潟県内も広い範囲で最大震度6弱の大きな揺れを観測し、上越市・長岡市・新潟市などの複数の地域で地震による液状化現象などにより、家屋の傾きや半壊などの被害が多数出ております。津波警報が出され、海岸地域では家屋や車が流され、河川では河口から上流に向かって逆流するなどの現象が発生しました。県内では死者はありませんでしたが、多くの県民が一時避難を余儀なくされました。

また新潟県内の私立幼稚園・認定こども園では、上越・中越・下越・佐渡の各地域において19の園で園庭に地割れが起きたり、液状化現象によって水が溜まったり、園舎の壁や床にひびが入ったり、アスファルトの駐車場に亀裂やブロック塀の破損などが報告されています。また断水の影響で手洗いや調理に水が使えないなどの報告もありましたが、いずれも規模は小さいもので、復旧にさほど多くの時間はかかりませんでした。

今回の地震では津波警報が長時間にわたり発出され、実際に県内各地点において津波が観測されたことが、これまでとは異なる留意点かと思われます。

地震とそれに伴う津波にどのように対処すべきか、保育時間中などに発生した場合の対応を改めて検討し、訓練し、備えなければならないとの認識を新たにしました。

(新潟県・真人幼稚園／前田 幹)

福井県

福井県では、石川県に隣接する県北部地区で家屋等に被害が出ましたが、加盟園からは開園に支障の出るような被害の報告はありませんでした。

(福井県・第二早翠幼稚園／徳本 達之)

全日本私立幼稚園連合会と全日本私立幼稚園PTA連合会では、この度の令和6年能登半島地震に対して全国の加盟園に義援金を募りました。皆様から頂戴した義援金については、特に被害に遭われた保護者や子どもたちに手を差し伸べたいと考えております。義援金の分配等については、改めてご報告いたします。

一日も早い、復旧、復興に繋がりますことを心から願っております。



遊具：HOUSE

未来は、あそびの中に。

偉大なる発明も、世界を変えた公式も、
あそびから生まれた。

あそびは、すべての創造の源です。

あそび力を伸ばすことは、未来を切り拓くこと。
創造力をのばす。共感力をはぐくむ。ルールをまなぶ。
あそびから、こどもは無限の力を羽ばたかせていく。

あそびの環境に、あざやかな驚きを。

私たちは、未来をつくる仕事です。



JAKUETS

● 1.22-23 認定こども園「教育・保育・質の向上」全国研修会

令和5年度・認定こども園 「教育・保育 質の向上」全国研修会 ～こどもまんなか社会における、 認定こども園の存在意義・在り方を考える～

令和5年度・認定こども園「教育・保育 質の向上」全国研修会～こどもまんなか社会における、認定こども園の存在意義・在り方を考える～が、令和6年1月22日(月)、青森県・八戸プラザホテルで開催されました。約120名の参加者が集まり、有意義な研修会となりました。

○開会式

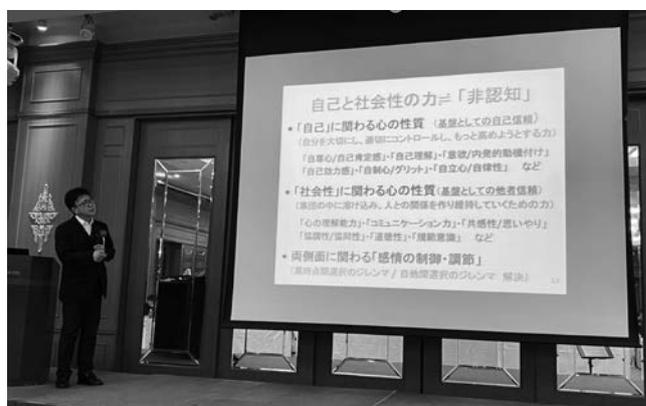
田中雅道会長から開会の挨拶が行われ、引き続き、濱名浩認定こども園委員長から研修会の概要説明が行われました。

○記念講演

記念講演では、「アタッチメントが拓く子どもの未来」と題し、東京大学大学院教育学研究科教授である遠藤利彦先生より講義をいただきました。

単なる皮膚接触や愛着とは異なるアタッチメント(怖い時や崩れそうな時に受け止めてもらったり、抱きしめてもらったりして心の安定を図れたか)が、人間の生涯にわたる心身の健康や幸せの形成に対して大きな影響を与えているということが、縦断研究(特定の人を時間軸で追いかけてデータを蓄積して調べ続けていく研究)によって示されてきています。

アタッチメントの剥奪研究による事例紹介では、ルーマニアにおける内容で、児童養護施設であるため物的環境や施設設備は充実しているものの、職員配置の問題もありアタッチメントが提供できない環境にあったそうです。そこでは子どもたちの頭の大きさも明らかに小さく、心身全般に長期的なダメージがあり、最も深刻であったのは、自己と社会性の力が欠如しており、感情の制御や調整ができなくなってしまったという結果でした。問題の根幹には自己信頼があり、人から愛してもらえ、受け入れてもらえるという経験から獲得するものです。助けてと言っても誰からも助けてもらえない、泣いても叫んでも無駄なこと、自分は助けてもらえるような



東京大学大学院教育学研究科 教授 遠藤利彦氏

価値がない人間、その繰り返しが自分の中で凝り固まってしまい、自己信頼のみならず他者信頼の感覚も持てなくなってしまうとの内容でした。

介入研究においては、ヘックマン博士のペリー就学前計画やマシュマロテストが示した研究結果が紹介されました。様々な研究において、IQや認知能力で開きが無いにもかかわらず開きがでしまう幸せの差については、それら以外の大切な心の力が働いているとしか説明がつかないということから「非認知能力」という言葉が使われ始めたそうです。シンギュラリティが迫る中、AIが崩せない最後の牙城とも言われており、「非認知的な心」は主に感情の当事者である子どもへの周囲の大人のかかわりと、子どもの自発的な遊びや学び(一人遊び・集団遊び)の中で醸成されるとのことでした。

また、アタッチメント理論では「A/E理論」と表されるように、Attachment(安全な避難所) Exploration(探索:安心の基地)に対して周りの

大人がどれだけ役割を果たせるかということにかかっています。

毎日あたりまえのように園で繰り広げられる光景が、いかに尊くも重責を担っているか、再認識する機会に恵まれました。

○行政報告

この度の行政報告は、新制度に関する概要解説をこども家庭庁成育局成育基盤企画課馬場専門官から、ていねいで今までにない楽しい雰囲気で行っていただきました。

内容は「安全対策について」「現状について」「こども家庭庁について」「こども基本法、子ども大綱、指針について」の4項目についてのお話でした。

「全ての子どもを対象としている」「今回の震災に会った子どもたちも漏らしません」と、こどもまんなかの精神について語られました。

「こども誰でも通園制度（仮称）」（以後「誰通」と表示）については、委託料単価 850（円/時間）、利用者負担額 300（円/時間）とされ「1歳児の配置基準で、フルに利用された場合、すなわち1日11時間、25日、配置比率6:1であれば最大月140万円程度になる」という説明がなされました。0歳児からの「誰通」ですが、子どものみの預かり以外で親子登園も視野に入れられているとの事でした。

今後、幼稚園が「誰通」なしに園児確保できるかということ、今後はかなり厳しい状況には違いないので、令和8年度からの本格実施の際には他補助事業（一時預かり保育事業）等と組み合わせて、人件費を担保しつつ「誰通」の展開を考えていく必要があると思われました。

「誰通」等、実施に関する詳細も今後もっと明らかになっていくものと考えられます。またこれまでの「こどもの最善の利益」という言い回しから、今後は「ウェルビーイング」と表現していくということも言及され、言葉の使い方に配慮されていると感じました。

今回、馬場専門官のご説明により、こども家庭庁の在り方、これからの制度の内容や実施についてさらに理解が深まりました。地震対応などで大変お忙しい中、はるばる青森八戸までお越しいただき、大



社会福祉法人清隆厚生会理事長 坂崎隆浩氏



こども家庭庁成育局成育基盤企画課専門官 馬場耕一郎氏
全日本私立幼稚園連合会認定こども園委員会委員長 濱名浩氏
全日本私立幼稚園連合会認定こども園委員会副委員長 石田明義氏

変友好的にお話ししていただけたことに感謝するとともに、今後のこども家庭庁との関係づくりにも大きな前進だと感じました。

○パネルディスカッション

「新制度の見直しと認定こども園のあり方について」をテーマとし、パネリストをこども家庭庁成育局成育基盤企画課 馬場耕一郎教育・保育専門官、社会福祉法人清隆厚生会 坂崎隆浩理事長、全日私幼連認定こども園委員会 石田明義副委員長が、コーディネーターを全日私幼連認定こども園委員会 濱名浩委員長が務め、パネルディスカッションが行われました。

最初に坂崎理事長より、新制度制定時に表明していた点や新制度10年目を迎えて今後の認定こども園のあり方について話がありました。厳しい少子化の時代となり、妊娠期からの未就園児対応、定員

数の改善、架け橋プログラムを通した5歳児の小学校への接続を考えた教育等に係る予算と仕組み作りを、園の存続のために叡智をだしてやっていかないといけない、と話され、幼児教育の場を良くしようという熱い思いを感じました。

石田副委員長からは、幼児教育・保育が抱える問題点（少子化問題、保育士不足、不適切保育、愛着障害等）、子ども子育て支援新制度の問題点・課題点（公定価格の単価、地域区分の格差、園規模により収支格差等）、幼児教育無償化制度の問題点・課題点（11時間保育無償化、処遇改善加算等）についての提言をいただきました。

その後、馬場専門官も加わり、公定価格についてはあきらめずに働きかけていくべきである、地域格差はそろそろ平準化をお願いしたい、人口減少・少子化対策について皆で考えないといけないところに来ている、親子の愛着形成を園としてどう支えていくのか、園は社会情勢にあわせて変わるべきところは変わり、存在意義をアップデートしていく、また公定価格について積み上げ方式と包括方式どちらが望ましいのか等、大変内容の濃いディスカッションとなりました。

認定こども園の今後について多くの課題・問題点はありますが、子ども・保護者・教職員・地域の方等、全ての人の幸せのために、今こそ教育・保育業界が一つとなり、様々な仕組みを考えていったり、国に対して要望したりと力を合わせていかなければならないと感じました。坂崎理事長の「そんなに時間はない」と言われた言葉がたいへん印象的でした。馬場専門官から「こども家庭庁は先生方の笑顔をしっかり支えて参ります」とエールをいただき、会は閉じられました。

〇見学会

研修会2日目の1月23日（火）は、参加者79名が八戸プラザホテルに午前9時に集合し、バス2台に分車して出発しました。

見学する施設は、八戸市内で認定こども園や企業主導型保育施設等を運営する学校法人鳳明学園のグループ施設です。理事長の田頭初美先生は“全世代型ノンストップ”と位置付けて、切れ目のない育児が実現できる施設を市内に10施設運営されていま



こもればのもり幼稚園 園舎



みどりのかぜエデュカーレ 園舎

す。

初めに訪れた施設は「認定こども園みどりのかぜエデュカーレ」「認定こども園みどりのかぜ北ウィング」「みんなの森のはらキッズ・みんなの森オアズ」です。エデュカーレと北ウィングは0歳児から5歳児まで在園し、一時預かりなどにも対応しています。どちらもダイナミックな吹き抜けが園舎の中央にあり、気持ちの良いアトリウム空間を醸し出していました。

みんなの森のはらキッズ・みんなの森オアズは、イギリス風庭園を連想させる園庭を有しており、瀟洒な園舎と一体的なヨーロッパ的雰囲気施設でした。園舎中央に円柱状の水槽が設置されていたり天井にネットが張られ縦の遊戯空間がもうけられるなど、園児のみずみずしい感性を育む仕掛けが随所に見られました。そして本格カフェテリアのようなカフェスペースが園舎に併設されていました。園児への配慮だけではなく、保護者のリフレッシュ面までカバーする心遣いに敬服いたしました。

園児や職員皆様に見送られ、次の施設「認定こど

も園こもれびのもり幼稚園」へ移動しました。郊外に位置しているこの施設は、まさに森の中にたたずむように広大な敷地の中にありました。コンセプトの「どうして?」「なぜ?」こどものワクワクやひらめき、好奇心をテーマにしていることが園舎の開放的なつくりから伝わってきました。地元産木材がふんだんに使用された木の香りのする園舎は、自然と心が癒される気がしました。

何より、広大な大自然とサンデッキを介してシームレスにつながる空間は大変魅力的でした。

園庭の“わくわくアイランド”“もりもりの森”など、自然と共生し自然から学ぼうとする理事長先生の高い志が具現化されていました。

今回見学させていただいた全施設の玄関に、顔認証形式の登降園システムが導入されていたり園内に人工知能搭載の見守りロボットが稼働していたりしましたが、肝心のこどもの感性を大切に自然と

共生する姿や、主体的対話的な保育教育への環境づくりに配慮されていることを学ばせていただきました。とても実り多い充実した見学会研修でした。ご協力いただきました学校法人鳳明学園理事長の田頭初美先生、グループの皆様に感謝申し上げます。

記事作成協力

(全日私幼連認定こども園副委員長、新潟県上越市・認定こども園マハヤナ幼稚園／石田明義)

(全日私幼連認定こども園副委員長、大阪府河内長野市・長野台幼稚園／安本照正)

(全日私幼連認定こども園委員、愛知県海部郡・認定こども園大治幼稚園／山崎拓史)

(全日私幼連認定こども園委員、鳥取県鳥取市・認定こども園鳥取第二幼稚園／濱本智子)

● 1.26 全国研究研修担当者会議

令和5年度全国研究研修担当者会議

1月26日、東京・アルカディア市ヶ谷で令和5年度全国研究研修担当者会議が開催され、全国から約70名が参加しました。

はじめに、山西幸子全日私幼連副会長による開会のあいさつ、宮下友美恵（一財）全日私幼研究機構副理事長による趣旨説明がありました。

各講演のあとに質疑応答の時間が設けられると、参加者からは熱意のある質問が飛び交い、盛況のうちに閉会となりました。

講演1：「近未来に向けての保育／教育の問い直し」
（一財）全日本私立幼稚園幼児教育研究機構
理事長 安家 周一氏

報告1：「教育研究委員会（研究研修委員会）からの報告」
全日本私立幼稚園連合会
教育研究委員長 岡本 和貴氏

報告2：「ECEQ®の今後の展開」
（一財）全日本私立幼稚園幼児教育研究機構
ECEQ® 専門部会長 岡本 潤子氏

報告3：「オンデマンド研修についてのお願い」
（一財）全日本私立幼稚園幼児教育研究機構
研究研修副委員長 川原恒太郎氏

講演2：「研修俯瞰図を生かした各地区・各園での研究研修の進め方」
武蔵野大学 教育学部幼児教育学科
教授 箕輪潤子氏

講演3：「これからの幼児教育の視点：幼児教育振興法をもとに」
全日本私立幼稚園連合会
会長 田中 雅道氏



令和5年12月号より、慶応義塾大学総合政策学部の中室牧子教授による年間連載を開始いたします。教育を経済学的手法で分析する「教育経済学」を専門としておられ、教育にも科学的な根拠が必要であることを説いておられます。多数のメディアにも出演実績のある中室教授の連載から、さらに幼児教育への理解を深めていただけますと幸いです。

第5回 非認知能力は伸ばせるのか

慶應義塾大学
総合政策学部教授 中室 牧子

幼児教育は、人の一生において長期的なプラスの効果を持つことはこれまで説明してきた通りです。その鍵が「非認知能力」にあることもわかってきました。非認知能力は、教育で伸ばすことができるのでしょうか。実は、これまで非認知能力を高める教育プログラムは留年や退学などのリスクの高い子どもたちに対して放課後の補習などを通じて行われるものが中心でした。実際に効果を上げているものも少なくありませんが、最近では、公立学校の低学年の生徒全員を対象にして、授業の一環として非認知能力を育てる教育が行われるようになってきています。こうした研究をリードしていることで有名な経済学者がイギリスのエセックス大学のスール・アラン教授です。彼女の研究グループは、小学生向けの忍耐力や自制心、(GRITと呼ばれる)やり抜く力、好奇心などの非認知能力を育てるプログラムを開発し、実際にそれに効果があるかどうかの検証を行っています。幼児教育にも参考になることが多いですから、ここでは「やり抜く力」に注目した研究をご紹介します。

アラン教授らは、やり抜く力の強い人が高い成果

を上げられるのは、失敗や挫折を乗り越えて、難しい課題に取り組む努力する意欲があるからではないかという仮説を立てました。この背景にあるのは、スタンフォード大学の心理学者であるキャロル・ドウェック教授らが提唱する「成長マインドセット」という考え方です。努力することで自分の能力を向上させることが出来ると信じている人は、仮に失敗してもめげずに、粘り強く取り組む傾向があることがわかっています。アラン教授は、様々な分野の専門家を集めて、やり抜く力を高めることのできる教材を開発し、その後、担任の教員に対して丸1日かけた教員研修を行いました。

この教材の特徴は、特定の単元を教えることにとどまるものではなく、教員の「授業のやり方」を変えることによって、子どもたちのマインドセットを変えようとしたことにあります。教員は子どもたちに、

- ①目標を設定することが重要なこと
- ②その目標を達成するためには、努力をすることが大切なこと

「子ども主体の保育」が「わかる」から「できる」へ

みんなでつくる園の未来！

保育ナビ

こども・子育て政策が大きく動く今、持続可能な園づくりの役に立つ、「国の動き」「人材育成」「園経営」「保育内容」「子どもの姿ベースの指導計画」「ミドルリーダーの仕事」など必須の情報をお届けします。

三 B5判 64ページ 定価 1,200円 (本体 1,091円+税 10%) 三

子ども主体の保育に
役立つ実践や
ヒントを紹介！

職員の育成・
離職防止に役立つ
情報を紹介！

本社：〒113-8611 東京都文京区本駒込 6-14-9 <https://www.froebel-kan.co.jp>
ご注文・定期購読のお申し込みは 03-5395-6608 保育事業部 営業推進チームまで

キンダーブックの **フーベル館**

- ③失敗や挫折を建設的に考えることが重要なこと
- ④人間の能力というのは決して生まれつきのものではなく、努力によって変えられること

を随所で伝えるように指示されます。例えば、実際に子どもたちを褒めるときには、良い結果だけではなく、生徒の「努力」を褒めることが推奨されました。成功における努力の役割を強調するように助言されたのです。研修を受けた教員は、12週間の間に最低2時間程度でこの教材を使用しました。

アラン教授らは、同じくトルコのイスタンブールにある公立小学校で2回の実験を行い、これに効果があったかを確認する検証を行っています。2度の実験が終了した後、生徒たちに対して行ったアンケート調査の結果から、プログラムを受けた生徒たちのやり抜く力が高まったことが証明されたのです。学力と同様に偏差値であらわすと、1回目の実験ではやり抜く力が2.9も高く、2回目の実験では3.5も高くなりましたから、この効果はかなり大きいと言えます。加えて、難しい問題を解くとご褒美が得られるというゲームを行うと、生徒たちは、より挑戦的な目標を設定し、練習問題をたくさん解いて、その結果、高価なご褒美を得る確率が高いことがわかりました。そして、プログラム終了から2.5年後に行われた追跡調査で、生徒たちは、数学の学力テストが偏差値で2近くも高くなっていました。

近年、日本でも非認知能力が重要だという認識は高まりつつありますが、非認知能力を育成することを明確に目標に据えたプログラムの開発は後手に回って

る印象があります。日本の文部科学省が推進している研究開発学校制度などもありますが、日本の問題は「効果があるかどうか」を科学的に検証しないことです。一見正しそうに見えても効果がないこともありますし、それどころか逆効果になることもあります。

例えば、ケンブリッジ-サモアビル・プログラムが有名です。このプログラムは、1939年にアメリカで13歳の男子を対象にして行われた教育プログラムで、非認知能力を高めることを目標にしたものでした。ハーバード大学の専門家らによって作られたもので、サマーキャンプへの参加、家庭教師とマンツーマンでの勉強、定期的な両親との家族会議などを行いました。ところが、このプログラムに参加した子どもたちを30年間追跡した研究によると、彼らが大人になった後の飲酒量が多く、健康状態が悪く、犯罪にかかわる確率が高く、寿命も短かったとことがわかっています。このプログラムでは、子どもたちの問題行動を矯正することに躍起になりすぎて、多くの活動への参加が半ば強制されていたため、子どもたちの自主性を奪ってしまうことになり、指示待ち人間にしてしまったのです。驚くべきことに、当事者の少年たちやその保護者はこのプログラムに満足し、効果があると感じていたそうですから、いかに当事者の印象のみに頼るのでは正確に評価ができないかということがよくわかります。専門家が開発したものであっても、それが安全だとか効果的であるという保証はどこにもありません。このような海外の事例から日本が学ぶべきことは多くあるように私には思われます。

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に準じた指導計画

月刊 保育とカリキュラム

毎月2日 発売



ひかりのくに株式会社

本社/〒543-0001 大阪市天王寺区上本町3-2-14 TEL.06-6768-1151代表
支社/〒175-0082 東京都板橋区高島平6-1-1 TEL.03-3979-3111代表

時代・次代

「プロジェクトK」(Kは鹿児島の略)

鹿児島県私立幼稚園協会の中にある次世代の集まりです。「この指とまれ」からはじまったこの集まりは、共に語り合い、共に学び合い、相互に高め合おうを目的としています。

県内、各支部・ブロックの園視察研修等の中で、それぞれの地域の特色を生かした教育保育に触れながら学びを共有しているところです。その他に他県との相互の視察研修や情報交換会等を行い活動は活発になってきています。そんな中プロジェクトKの仲間から「次世代の研修を九州で」ということで、2月9日鹿児島県で「九州次世代研修会」を開催することができました。それこそ地域によって様々ですが、リアルな悩みや課題、問題提起もあり、グループディスカッションでの活発な意見交換など充実した時間を過ごすことができました。私自身はすでに次世代と呼ばれることはない世代ですが、教育保育に対する意識や感性などとても多くを学ばせていただく時間となりました。経営、運営を模索していく中で若い力を感じさせていただきました。とはいえ、現実に戻ると離島にある私の園は超少子化時代突入です。成功事例が通用しない地域になりつつあります。これで少子化に貢献できるかはわかりませんが、これからも園からの子育て、子育ての温もりや暖かさを発信し続けられればと思っています。小さくても最高の園づくりを目指していきたいと考えています。

((一社)鹿児島県私立幼稚園協会理事、熊毛郡・認定こども園すみれ子ども園／岩川臣之介)

今を大切に

この3年半、新型コロナウイルス感染症の影響で良いも、悪いも世の中が大きく変わりました。このことは幼稚園・こども園の保育の世界でも同じです。行事や保育の縮小化や効率化など大きく変化していると感じます。

福井県私立幼稚園・認定こども園協会では、昨年よりようやく気兼ねなく普段通りの活動が出来るようになりました。養成校と協会加盟園の間での採用の連携や、実習生に対する指導内容の質の向上を話し合える「学生がまんなかプロジェクト」として交流会の実施など。

まだまだ、多くの園がかかえる保育教諭不足という問題はすぐには解決していませんが、学生の皆さんが直接園を見学できる機会が増えたりしています。

また、当協会が主催するキャリアアップ研修会をはじめ、県や市主催など多くの研修会が対面式に戻り、保育教諭の皆さんが熱心にお互いに保育の質を高めあう機会も増えました。

やっと普段の生活に戻ってきた矢先、元旦にマグニチュード7.6の「令和6年能登半島地震」が起きました。

日々園を開園できていること、子どもたち、教職員の皆さんが園に朝来て、無事に帰っていくこと。笑い声や泣き声、元気な声が聞こえてくること。帰る家があって、待っていてくれる人がいることなど、何一つ当たり前なことはありません。日常生活の中に幸せはいっぱいあるのだと気づかされます。子どもたちと関わっている今を大切に精進して参りたいと思います。

能登半島地震で犠牲になられた皆さまに謹んでお悔やみを申し上げますとともに、被災されました皆さまに心からお見舞い申し上げます。皆さまのご無事と一日も早い復興を念じております。どうか能登の子どもたちに穏やかで安心な日常、春が訪れますように。

(福井県私立幼稚園・認定こども園協会副会長、福井市・認定こども園新田塚幼稚園／荒川慈文)

編集後記

桜咲き、暖かい陽気あふれる季節がやってきました。新年度を迎え、進級の喜びや期待を持つ子、入園を迎え保護者の方と離れる新しい環境に不安いっぱいの子、そんな様々な心境の子どもたちに寄添い保育をする先生方の、あわただしくも活気あふれる様子が目に浮かびます。75年ぶりに配置基準が改善されたことで、子どもたちを取り巻く環境がよりよくなることを願うとともに、今年新たに先生としての人生を歩み始めた1

年目の先生方が夢を持って幼児教育を行い、すべての先生が長く勤めていただけるような環境整備が出来上がっていくことを願っております。

大きな災害、事故から始まった令和6年、被災した地域の出来るだけ早い復興を願うとともに、これから始まる令和6年度は人的による悲しい事故が起きないように、各施設長には安全管理を徹底していただき、私自身も子どもたちが安心安全で健やかに生活できる環境を整えていけるよう努力してまいります。
(広報委員・青柳貴也)

ホーネット 車内置き去り防止システム

カーセキュリティ機能付き車内置き去り防止システム

- エンジン停止後にブザーが鳴ります。
- 見回りながら後部に設置したリモコンボタンを押してブザーを止めます。

車内センサーが人の動きや振動を検知してアラームでお知らせ！



車両の位置情報や移動履歴などスマホやPCで管理できます。



アナログによる
ヒューマンエラー
防止

デジタルによる
見守り

株式会社 **チャイルド社** コンピュータ部

〒167-0052 東京都杉並区南荻窪4-39-11
ホームページ：https://www.child.co.jp/

クラスや園のみんなで楽しめる

アプリがチャイルドブックから登場！



ダウンロード無料

お誕生日会に

生活指導に



絵本の
読み聞かせに

いっしょによむぞう サブスクリプション料金

特別価格
1アカウント/月額プラン 5,500円(税込)
1アカウント/年額プラン 55,000円(税込)

※チャイルドブック担当営業員を介してご購入いただいた場合の価格です。

初回会員登録限定 **30日間無料体験実施中!** 対応OS iPad OS 14以降 Android 5.0以降

会員登録した日から30日間無料ですべての機能をご利用いただけます。ぜひ、この機会にお持ちの端末でお試ください。

iPadは
こちらから



Androidは
こちらから



〒112-8512 東京都文京区小石川 5-24-21
TEL 営業 03-3813-2141 編集 03-3813-3785

チャイルド本社